

1. インターンシップ実施期間について
2. マッチング率向上への取組について
3. 【ご参考】次期博士支援事業<sup>(※)</sup>との連携について

(※) 現行の次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）及び大学フェローシップ創設事業の後継事業

# 1. インターンシップ実施期間について

- 現行制度において、本インターンシップの実施期間は「長期間（2ヶ月以上）」と定めている。
- 実施期間の下限が「2ヶ月以上」であることについて、**参加へのハードルを感じるという意見がある**ことから、「1ヶ月以上」のプログラムを許容してはどうか。
- ただし、2ヶ月以上について「ちょうどよい」あるいは「短い」という意見も存在することから、**2ヶ月以上が望ましいと考える企業**においては、現行どおり2ヶ月以上のJDを提示することは妨げない。

## ジョブ型研究インターンシップの定義 <改定案>

以下の要件をすべて満たすインターンシップを「ジョブ型研究インターンシップ」とする。

- ・ 研究遂行の基礎的な素養・能力を持った**大学院学生**が対象\*
- ・ **長期間（原則として2ヶ月以上だが、内容に応じて短くすることも可能）**かつ**有給**の研究インターンシップ
- ・ **正規の教育課程**の単位科目として実施
- ・ 本ガイドラインに沿った**ジョブディスクリプション（業務内容、必要とされる知識・能力等）**を提示
- ・ インターンシップ終了後、学生に対し**面談評価**を行い、**評価書・評価証明書**を発行
- ・ インターンシップの成果は、企業が適切に評価し、**採用選考活動に反映することが可能**

\* 当面の間、博士課程学生を対象とし、修士課程学生については、引き続き検討

## 2. マッチング率向上への取組について

### (1) マッチングを促進するための“システム内での仕掛けづくり”として、以下のシステム改修を予定

#### ① JD検索画面における専門分野での検索機能の追加

＜現在＞           フリーワード検索のみ可能

＜2024年度～＞ JDの専門分野での検索を可能としてはどうか

- 本制度開始当初においては、分野による検索を可能とした場合、専門分野に近いJDのみを検索し、活躍の場を広げるマッチングを阻害するという考えから、近い専門分野については事務局での集計のみの用途とし、学生向けの項目として非表示としたという経緯がある
- しかしながら、
  - ・ フリーワード検索のみの場合、学生はむしろ研究テーマに関するニッチな研究キーワードで検索し、適したJDにたどり着くことができていない可能性があること
  - ・ 学生アンケートにおいても専門分野での検索機能を要望する声が多数あったことを踏まえて、応募してもらうためには、JDをより多くの学生の目に触れてもらうことが大切であるという観点から、上記のような変更としたい

## 2. マッチング率向上への取組について

### ② 学生の「気になる」を企業に通知

＜現在＞

学生側のブックマークとして機能している

＜2024年度～＞

**「応募オファーを受け取る」の設定にしている学生についてのみ、当該学生が「気になる」ボタンを押した場合、その情報（※）が当該JDを提示している企業に通知されるようにしてはどうか**

（※）学生が「応募オファーを受け取る」を選択した場合に企業が閲覧可能な範囲のみ

- これまでも学生が気になる企業をブックマークする「気になる」機能は存在するが、それを企業側が把握する機能は実装されていない
- 企業から学生への応募オファー機能は、利用する企業と利用しない企業がはっきり分かれているものの、利用する企業はかなり積極的に利用している傾向がある
- 学生からの「気になる」を企業が把握することで企業から学生への応募オファーでのコンタクトを促し、JDの応募およびマッチングを促進することを狙い、上のような変更としたい
- 通知される学生の情報は、受取拒否する時は通知されず、また、個人情報の公開範囲についても応募オファー同様に伏せられるものとする

## 2. マッチング率向上への取組について

### (2) 先行事例の周知

- 学生の視野を広げる観点から、先行事例を広く周知することが重要
- 現在も事例を紹介するインタビュー記事や、実際に参加した学生へのアンケート結果を協議会のウェブサイトに掲載しているが、もっと多くの関係者の目に触れるよう工夫する必要がある
- 今後、更なる事例の収集と、効果的な周知活動の検討を継続的に実施していく必要がある



**Juan Paulo Wieff**

**Kazutoshi Iida**

**RESEARCH INTERNSHIP : Case Studies**

**ジョブ型研究 インターンシップ 実施事例**

**株式会社 エア・リキード・ラボラトリーズ**

博士課程で身につけた問題解決能力に加えて、インターンシップで「プラスファクターとなる能力」を身に着けてほしい

2021年度からジョブ型研究インターンシップを実施していただいている株式会社エア・リキード・ラボラトリーズの代表取締役社長の飯田和利様、実際に学生受入をした現場の担当者のファンバウロウイフ様(博士(工学))の両名に本制度についてインタビューをしました。

受入先機関の紹介と『ジョブ型研究インターンシップ』について

—まずは簡単に会社について教えてください—

飯田氏 工業用ガスと医療用ガスの世界トップサプライヤーであるエア・リキード社(本社:フランス)のコーポレートR&D(中央研究所)には、大規模な拠点が5箇所あります。その中のひとつが弊社、

始まったことは非常に良いことだと思っています。その制度の拡大に協力したいと思うと同時に、そういった制度に積極的に参加してくるであろう優秀な学生さんに接してみたいという目的があります。

—インターンシップに参加される学生に期待すること、特に学部生・修士課程学生と比べて博士課程学生に期待していることがあれば教えてください—

<例>

- ✓ 株式会社エア・リキード・ラボラトリーズ様のインタビュー記事
- ✓ 文部科学省のインタビュー記事（職員×インターン生のクロストーク）

を協議会のウェブサイトに掲載中

<https://coopj-intern.com/result>

### 3. 【ご参考】次期博士支援事業との連携について

- 博士後期課程学生への経済的支援とキャリアパス整備を一体として行う実力と意欲のある大学を支援するために、令和3年度より、文部科学省科学技術・学術政策局にて「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロースhip創設事業」及び「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）事業」を実施している。
- 次期博士支援事業におけるキャリアパス整備については、**ジョブ型研究インターンシップへの更なる参画**とともに、より実効性の高い具体的な計画となっているか確認する等、フォローアップのあり方を明確化する予定である。
- 具体的には、**次期博士支援事業の採択に係る要件の一つとして、支援対象となる学生にはジョブ型研究インターンシップへ登録\***していただくことを付すことを想定している。

\* 学生は、ジョブ型研究インターンシップ専用のマッチングシステムへ登録すると、同システム内で企業のジョブディスクリプション（業務内容、必要とされる知識・能力等を示した募集情報。以下「JD」という。）を閲覧できるようになる。その後の流れとしては、学生が参加したいと思うJDがあれば、システム上で応募（エントリー）していただき、企業の選考を経てマッチングが成立すれば、契約等の手続きを経て、ジョブ型研究インターンシップに参加することができる。なお、ここでは、システム登録を要件としたとしても、ジョブディスクリプションへ「応募」するか否かは学生の任意となる。



# 博士後期課程学生の処遇向上と研究環境確保

令和6年度予算額（案） 0.3億円  
（前年度予算額） 36億円



令和5年度補正予算額 499億円

## 現状・課題

- 博士後期課程学生は、我が国の科学技術・イノベーションの一翼を担う存在であるが、近年、「**博士課程に進学すると生活の経済的見通しが立たない**」「**博士課程修了後の就職が心配である**」等の理由により、**修士課程から博士後期課程への進学者数・進学率は減少傾向**にある。
- このため、① **優秀な志ある博士後期課程学生への経済的支援を強化し処遇向上を図るとともに**、② **博士人材が幅広く活躍するための多様なキャリアパスの整備を進める**ことが急務。

## 事業内容

### 【事業概要】

優秀で志のある博士後期課程学生が研究に専念するための経済的支援（生活費相当額及び研究費）及び博士人材が産業界等を含め幅広く活躍するためのキャリアパス整備（企業での研究インターンシップ等）を一体として行う実力と意欲のある大学を支援する。（令和3年度より実施）

※これまで実施していた「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」及び「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）」を一体化して実施。

### 【支援内容】

#### ① 優秀な博士後期課程学生への経済的支援

優秀な博士後期課程学生を選抜。学生が研究に専念できるよう、生活費相当額（年間180万円以上）及び研究費からなる経済的支援を実施。

#### ② 博士人材のキャリアパス整備

高度な研究力を有する博士人材が多様な分野で活躍できるよう、企業での研究インターンシップや海外研鑽機会の提供、マネジメントなどのスキル形成等の取組を実施。

支援対象：国公立大学（JSTによる助成事業）

支援人数：**約10,800人/年**（全学年合計）×**3年**

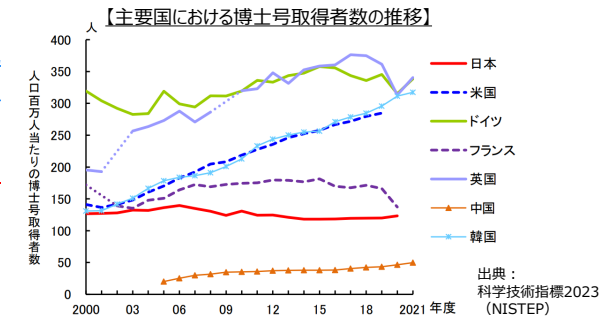
※別途、大学ファンドの運用益も充当

支援単価：生活費相当額・研究費とキャリアパス整備費を合わせて博士後期課程学生1人当たり、**年額290万円**を基本とする。

事業期間：学生への支援の安定性に留意しつつ、各大学の取組状況や大学ファンドの運用益による支援策の検討状況等を踏まえ実施。

### 【期待される成果】

- ・研究に専念できる環境の実現により、**新たなイノベーションを生み出す博士人材の研究生産性を向上**、及び**我が国アカデミアの研究力強化に貢献**。
- ・挑戦的・融合的な研究を行う博士学生を持続的に支援することにより、イノベーション創出を図るとともに、成長力強化を狙う企業への就職や、国内投資の拡大を目指すベンチャー起業等を通じて**我が国の生産性向上・供給力強化に人材基盤の面から寄与**。**人材力・研究力・成長力の高度化の好循環を実現**。



- 現在博士課程に進学して支援を受けている学生、及びこれから進学しようとする優秀で意欲のある学生が、**博士課程を修了するまで3年間持続的・安定的に支援を受けられる**。
- **第6期科学技術・イノベーション基本計画の目標\*の達成を図りつつ、安定的・継続的な事業実施のための3カ年分の所要経費を基金に一括計上**。

\*第6期科学技術・イノベーション基本計画における博士支援目標値（R7）：22,500人

### 【支援スキーム】

